

千葉一二三著

『病院の怪談』再出版企画

現在スピリチュアルカウンセラーとして活動している千葉一二三は、2001年に青春出版社より『霊能者が見た 病院の怪談』という単行本を出しています。霊能者として類まれな力を持つ本人が、実際に見たり聞いたりした病院での本当にあった恐怖体験を語った内容です。

<作品内容>

水子からの遊びの誘い

病院の更衣室についた黒髪の怨念

霊安室でうごめく霊のささやき

病室から聞こえる「わ、た、し、は…」

次々に死を呼ぶ恐怖のベッド

廃墟の病院には必ず…

縫合された死体は今日も生き返っている

男の腕に巻きついた蛇女の生霊

こっくりさんの呪い

足元からみつく子どもの腕の霊

病院の鏡に映るうすら笑いの女

深夜の女子トイレで見た

手術室に患者と一緒に入った老婆

次はあなたの番かもしれない…

外科医に無数の胎児の霊の塊が…

参考までに、アマゾンのカスタマーレビューでは「恐怖本としては隠れた名作」と評して、次のようなコメントがされています。

⇒思わず「ほんとか？」と言ってしまうような信じられない描写にあふれていた。無名の作家ならよくできたフィクションという感じだが、本物の霊能力者である千葉さんの体験だけに真実の話なのだろう。多少脚色してあるのかもしれないが、それはそれとして本として読むぶんには面白かった。…というより怖かった。期待せずに読んだだけにかなり読み応えがあった。恐怖本が好きな人にはお薦めできる。

読書メーターのレビューには次のようなコメントがされています。

⇒霊は半分信じて、半分疑ってる私だけど、この作者さんの霊や死神に関する解説は納得できるものが多かった。病院に行くときは、獲物を狙って徘徊してる死神に目をつけられないよう、気合いを入れて行かなくちゃ！あと、様子のおかしい医者には絶対に手術は頼まないようにしましょう。死者を増やしたい死神にとりつかれてて、わざと失敗するかもしれないから。と、そんなことあるわけがないと思いつつも用心しようと心に誓ってしまいました。今まで読んだ怪談本のなかで、一番説得力があった。

まさしく著者・編集者の意図するところが伝わっているコメントです。このまま終わらせるのは惜しく、是非とも文庫本で再度出版されることを望んでいます。

青春出版社からは、他社で再度出版することの了承を得ています。